

Microsoft Windows Vista™ の設定

Magic eDeveloper V9 Plus

本書に記載の内容は、将来予告なしに変更することがあります。これらの情報について MSE (Magic Software Enterprises Ltd.) および MSJ (Magic Software Japan K.K.) は、いかなる責任も負いません。本書の内容につきましては、万全を期して作成していますが、万一誤りや不正確な記述があったとしても、MSE および MSJ はいかなる責任、債務も負いません。

MSE および MSJ は、この製品の商業価値や特定の用途に対する適合性の保証を含め、この製品に関する明示的、あるいは黙示的な保証は一切していません。MSE および MSJ は、本製品の使用またはその使用によってもたらされる結果に関する保証や告知は一切していません。この製品のもたらす結果およびパフォーマンスに関する危険性は、すべてユーザが責任を負うものとします。この製品を使用した結果、または使用不可能な結果生じた間接的、偶発的、副次的な損害（営利損失、業務中断、業務情報の損失などの損害も含む）に関し、事前に損害の可能性が警告されていた場合であっても、MSE および MSJ、その管理者、役員、従業員、代理人は、いかなる場合にも一切責任を負いません。

本書に記載のソフトウェアは、製品の使用許諾契約書に記載の条件に同意をされたライセンス所有者に対してのみ供給されるものです。同ライセンスの許可する条件のもとでのみ、使用または複製することが許されます。当該ライセンスが特に許可している場合を除いては、いかなる媒体へも複製することはできません。ライセンス所有者自身の個人使用目的で行う場合を除き、MSE または MSJ の書面による事前の許可なしでは、いかなる条件下でも、本書のいかなる部分も、電子的、機械的、撮影、録音、その他のいかなる手段によっても、コピー、検索システムへの記憶、電送を行うことはできません。

一般に、会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。サードパーティ各社商標の引用は、MSE および MSJ の製品に対する互換性に関しての情報提供のみを目的としてなされるものです。

本書において、説明のためにサンプルとして引用されている会社名、製品名、住所、人物は、特に断り書きのない限り、すべて架空のものであり、実在のものについて言及するものではありません。

初版 2007年6月25日

マジックソフトウェア・ジャパン株式会社

目次

目次	3
1. はじめに	4
2. ライセンスサーバ	5
2.1 ライセンスサーバの設定	5
2.2 ライセンスマネージャからの接続	9
3. Pervasive PSQL	10
3.1 Vista対応の製品	10
3.2 起動時の留意事項	10
4. ユーザーアカウント制御(UAC)による影響	11
4.1 インストール	11
4.2 OSコマンドの実行	11
4.2.1 OSコマンドのみ管理者権限で実行する	11
4.2.2 V9Plusを管理者権限で実行する	14
4.2.3 UACを無効にする	15
4.3 ブラウザクライアントの実行	16
5. インターネットリクエストの設定	17
5.1 IIS7の有効化	17
5.2 仮想ディレクトリの作成	19
5.3 インターネットリクエストの実行許可	21
5.4 IIS7サービスの起動	25
5.5 ブラウザクライアントモジュールのインストール先	26
5.6 URLの日本語の使用について	26
6. ブラウザクライアントの設定	27
6.1 V9 Plus アプリケーションサーバの設定	27
6.2 Vista クライアントの設定	27
6.2.1 Microsoft .NET Framework	27
6.2.2 クライアント用モジュールのセットアップ	27
7. その他の機能について	28
7.1 Internet Explorer 7	28
7.2 メイリオフォント	28
7.3 JIS2004 対応	28
7.4 ヘルプファイル	28

1. はじめに

Microsoft Windows Vista TM (以下、Vista)は、マイクロソフト社からリリースされた新しい OS であり、今後 XP の後継 OS として現行マシンから順次リプレースされていくことが予想されます。しかしながら Vista は XP の互換を維持しつつも、大幅な機能の追加を行われており、V9 Plus の既存のシステムを動作させるために留意しておく点がいくつかあります。

本書では、それらのシステムを正しく動作させるための設定、および留意事項を説明いたします。

尚、ここでは Vista 固有の新機能、および変更点に関する仕様の説明は割愛させていただきます。

2. ライセンスサーバ

2.1 ライセンスサーバの設定

FlexLM ライセンスサーバは、Vista でのサービスからは実行できません。FlexLM をインストールすると、次のようなエラーが表示されます。

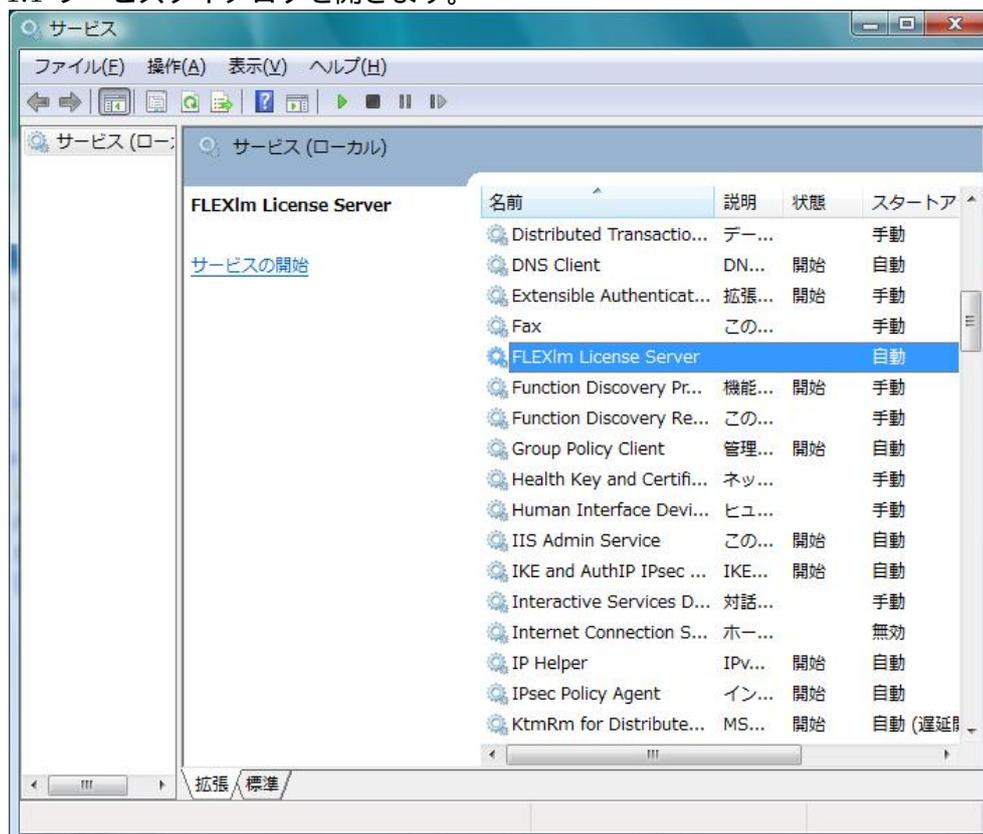


この場合、FlexLM をインストールせずに、Vista 以外のマシンで起動したライセンスサーバを参照するか、Vista 上の FlexLM で実行する場合は、スタートアップメニューによるコマンドラインで起動するか、いずれかの方法で回避していただくようお願いいたします。

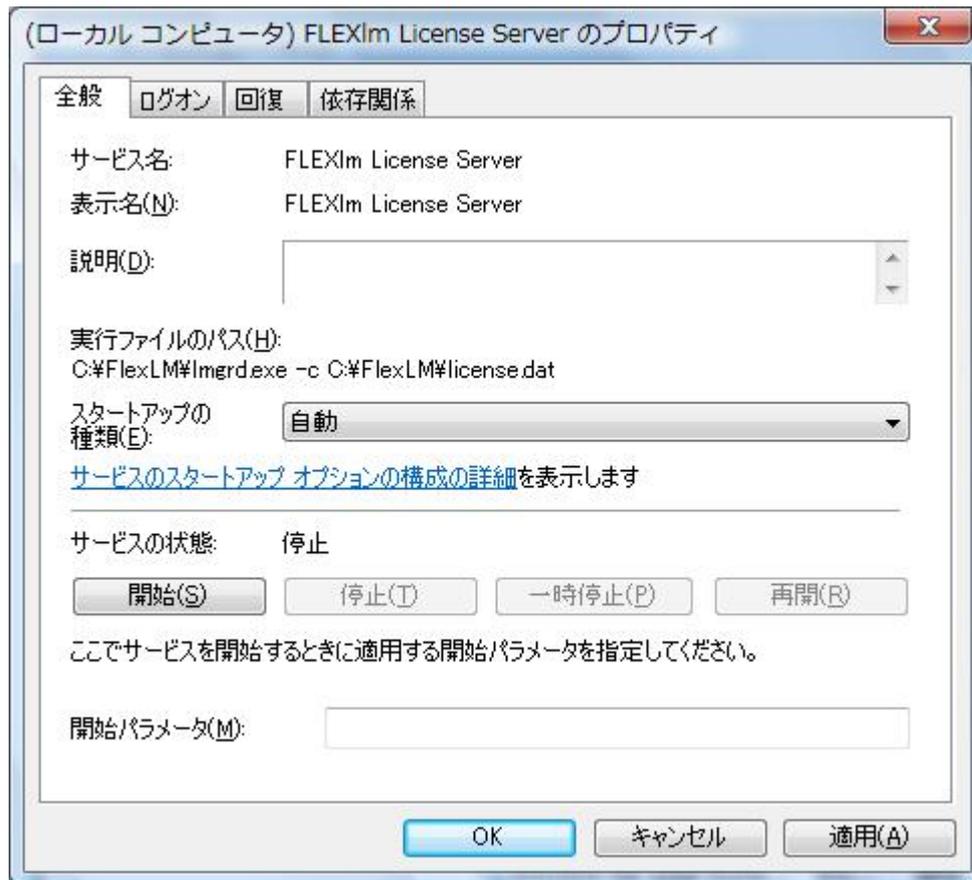
スタートアップメニューのコマンドラインで起動する方法

1. ライセンスサーバのサービスを無効にする。

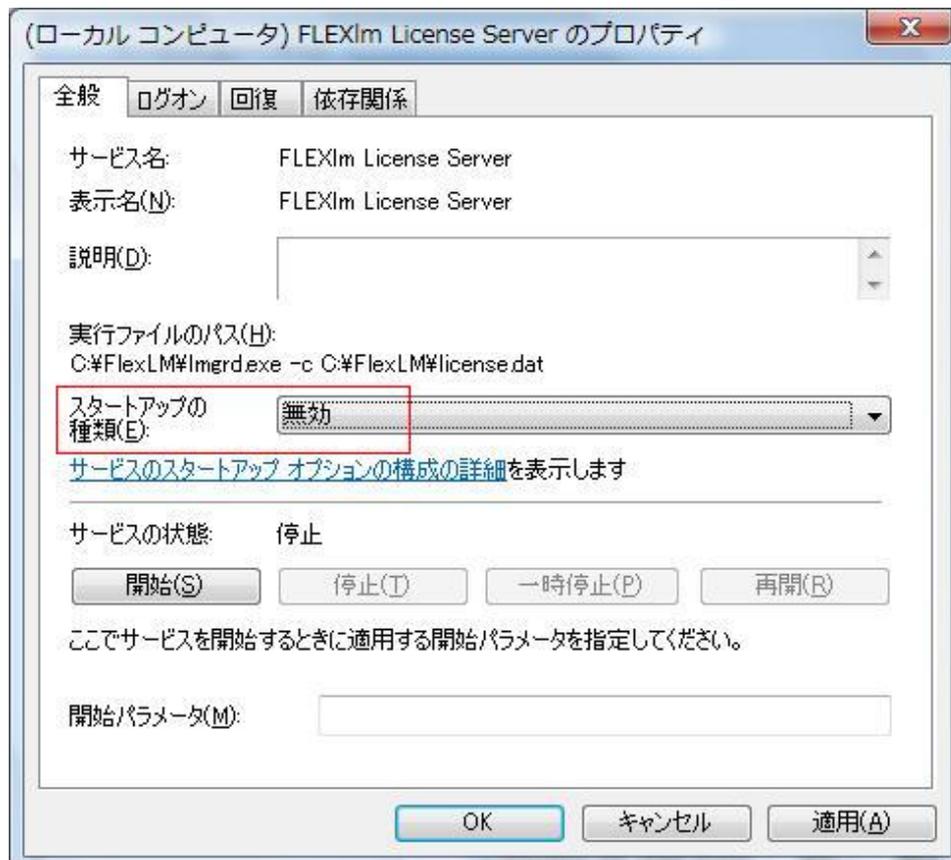
1.1 サービスダイアログを開きます。



1.2 「FLEXlm License Server」をクリックしてプロパティを開きます。



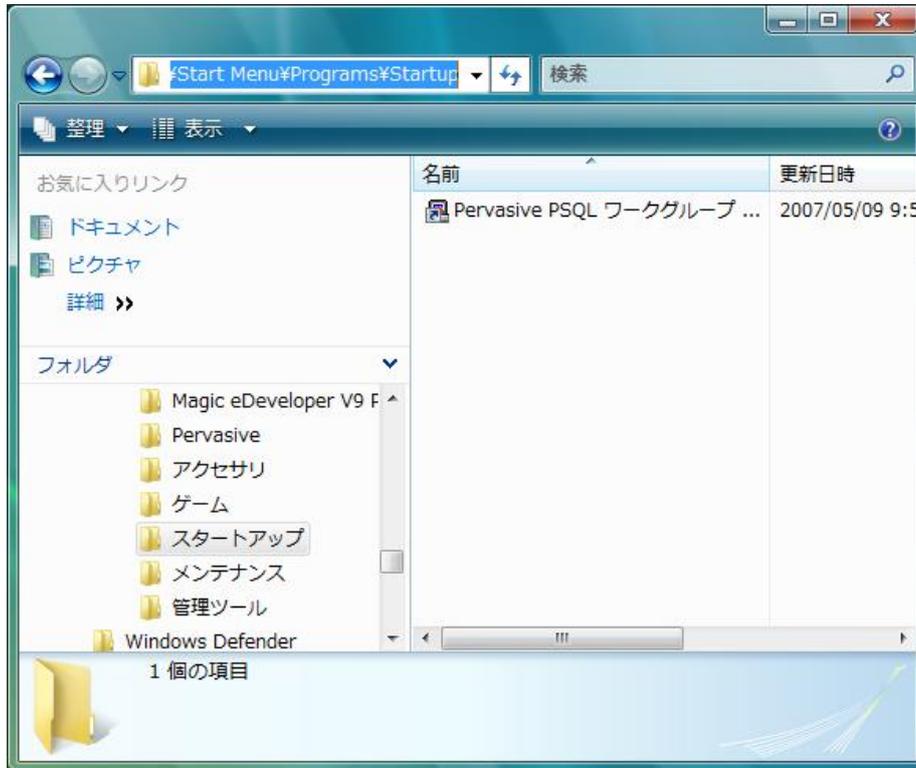
1.3 スタートアップの種類を「無効」に設定します。



2. スタートアップメニューにライセンスサーバを設定する。

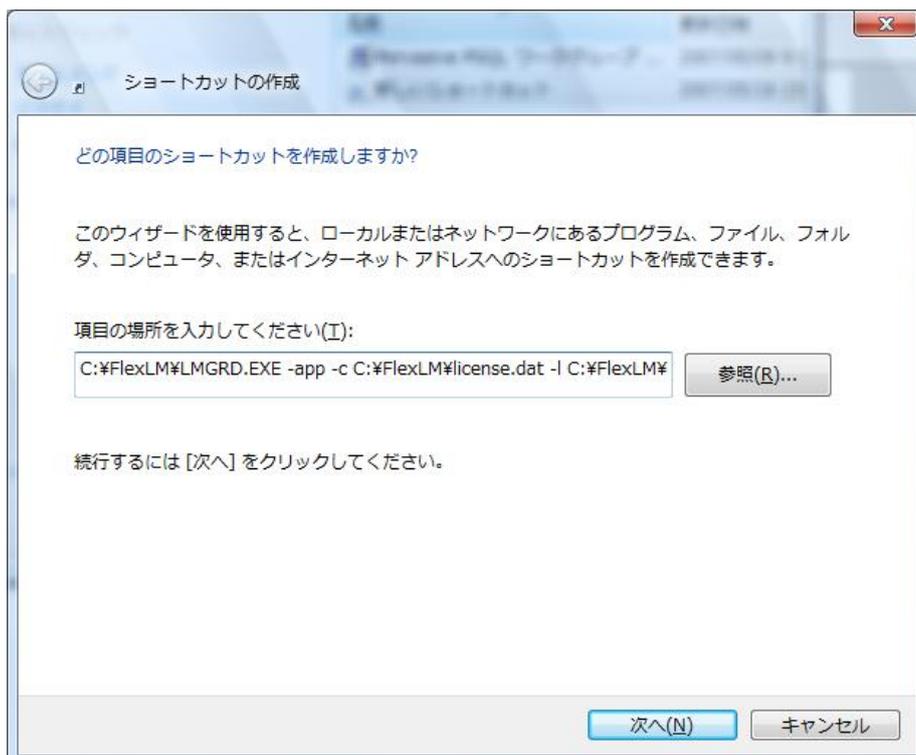
2.1 スタートアップメニューのフォルダを開きます。

場所は、C:\ProgramData\Microsoft\Windows\Start Menu\Programs\Startup



2.2 右クリックのメニューから「新規作成(W)」 - 「ショートカット(S)」をクリックして、ショートカットを作成し、「項目の場所...」に以下のコマンドを設定し、「次へ(N)」をクリックします。

`C:\flexlm\lmgrd.exe -app -c C:\Flexlm\license.dat -l c:\flexlm\lmlog.txt`



2.3 任意の名前を設定し、「完了(F)」ボタンを押します。

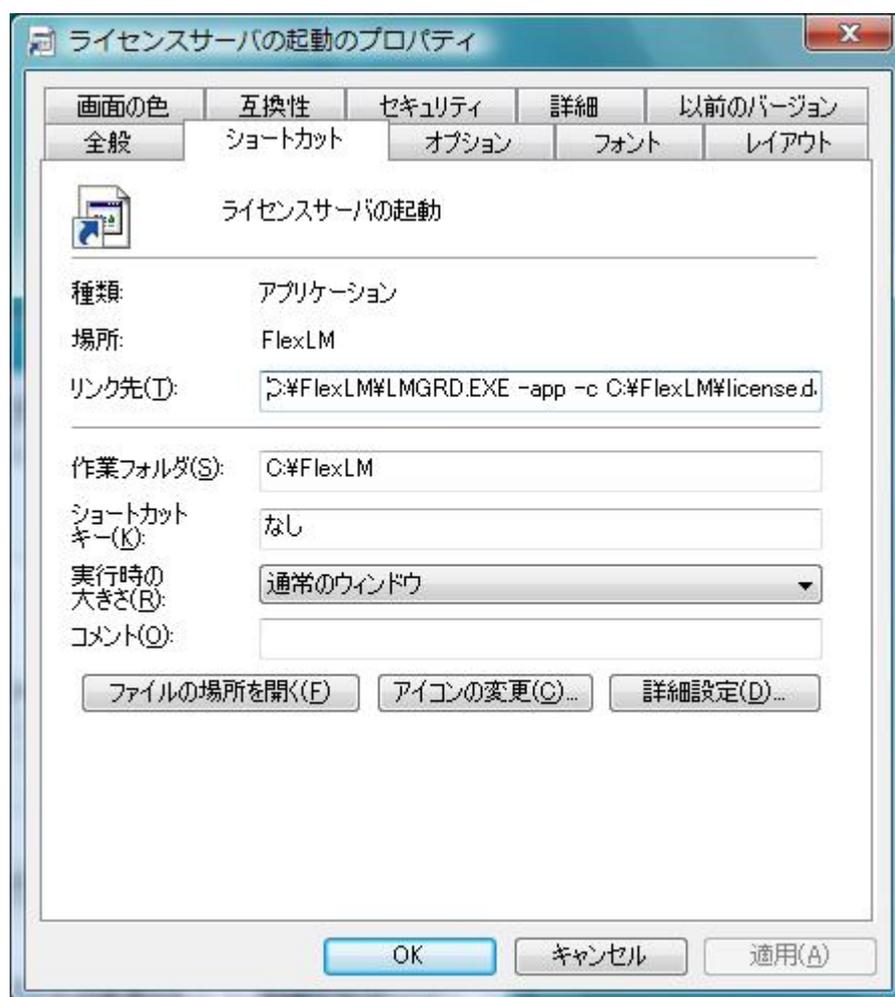
3. ライセンスサーバの起動/停止のショートカットを変更する

ここでは、スタートメニューに登録されたライセンスサーバの起動/停止のショートカットの設定を変更します。ライセンスサーバのサービスの起動/停止が設定されていますので、コマンドの起動/停止に変更します。

3.1 「スタートメニュー」 - 「すべてのプログラム」 - 「Magic Client V9 Plus」または、「Magic ApplicationServer V9 Plus」 - 「Magic9 ライセンスサーバ」を順に開き、「ライセンスサーバの起動」で右クリックメニューの「プロパティ(R)」を開きます。

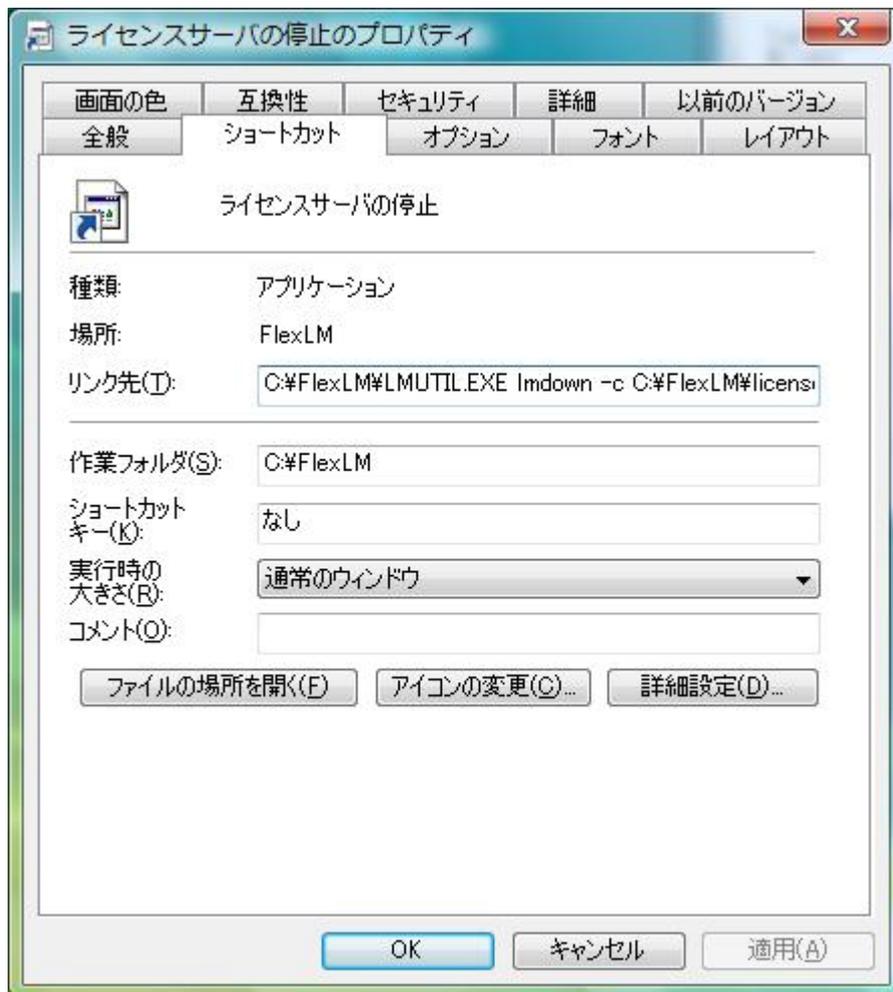
3.2 リンク先を以下のように変更します。

```
C:%flexlm%lmgrd.exe -app -c C:%flexlm%license.dat -l c:%flexlm%lmlog.txt
```



3.3 同様に、「ライセンスサーバの停止」の「プロパティ(R)」を開き、リンク先を以下のように変更します。

```
C:%flexlm%lmutil.exe lmdown -c C:%flexlm%license.dat
```



参考

XP と同様、Windows ファイアウォールが有効になっている場合、例外リストに以下の 2 つの項目を登録する必要があります。

- ・ポート 744
- ・プログラム C:\FlexLM\LMG.EXE

2.2 ライセンスマネージャからの接続

ライセンスマネージャを実行する際、管理者権限で実行しないと、ライセンスサーバとの接続に失敗します。この場合、ライセンスマネージャのショートカットの右クリックのメニューから「管理者として実行(A)...」を選択するか、後述する「[V9Plusを管理者権限で実行する](#)」を参考にして、ライセンスマネージャのショートカットのプロパティを変更してください。

3. Pervasive PSQL

3.1 Vista対応の製品

V9 Plus にバンドルされている Pervasive.PSQL v9 SP1 は、Vista に対応していません。このため、Pervasive PSQL v9 SP2 (v9.5) 以降をお使いいただく必要があります。Pervasive PSQL v9 SP2 がバンドルされた Ver9.4 SP6b は、2007年6月25日リリースです。既存システムで使用する場合は、追加購入時に入手した CD-ROM で使用することが可能です。追加購入の予定がない場合は、メディアセットを購入する必要があります。

3.2 起動時の留意事項

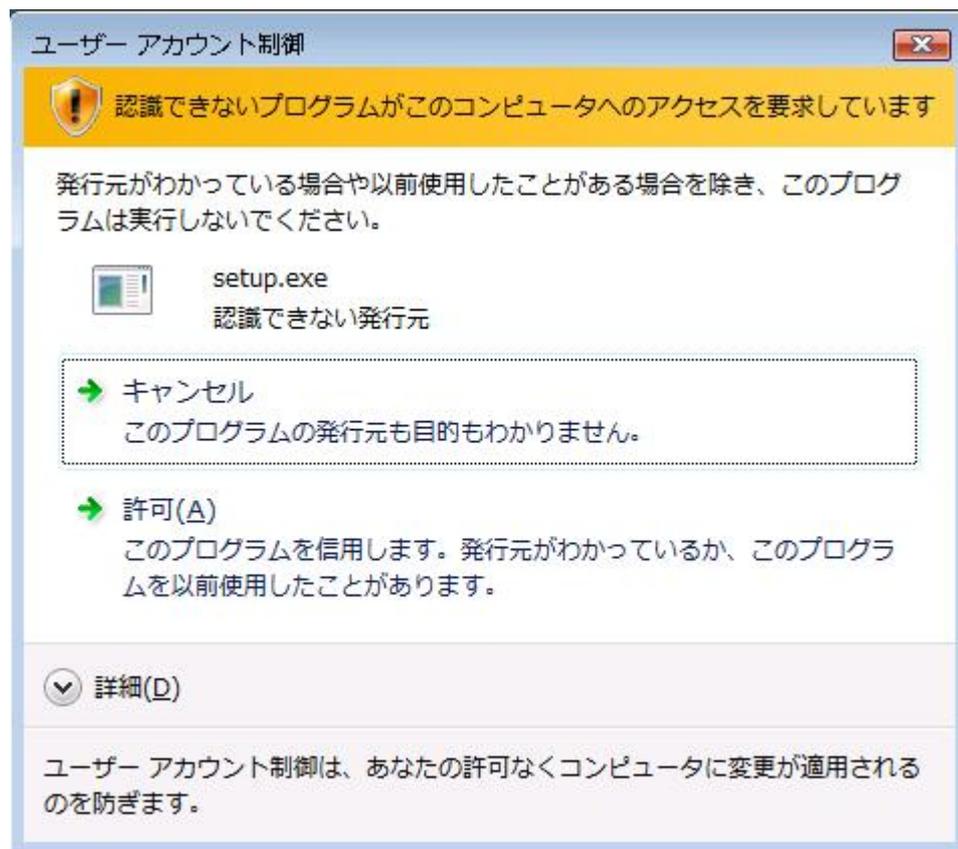
スタートアップメニューに登録されたワークグループエンジンは、UAC の制御により実行が抑止されるため、Pervasive PSQL のアプリケーションファイルを開いたときに、「I7-#3103 ファイルマネージャ異常です。」等のダイアログが表示されることがあります。この場合の対応は、エージェテック社 (<http://www.agtech.co.jp>) から提供されている「Pervasive PSQL v9.5 の Windows Vista との互換性のホワイトペーパー」をご覧ください。

4. ユーザーアカウント制御(UAC)による影響

Vista はセキュリティ強化の一環として、新しい UAC(User Account Control) が導入されております。Administrator グループのユーザであっても、通常のアプリケーションは、標準ユーザと同等の特権で実行されるようになり、管理者権限で実行できるアプリケーションおよびコマンドに対しては、ユーザの明示的な同意が必要になります。これにともない、以下のケースで影響があります。

4.1 インストール

Administrator 権限で setup.exe を実行しても、次のような「ユーザアカウント制御」のダイアログが出ます。この場合は「許可(A)」をクリックして続行します。



4.2 OSコマンドの実行

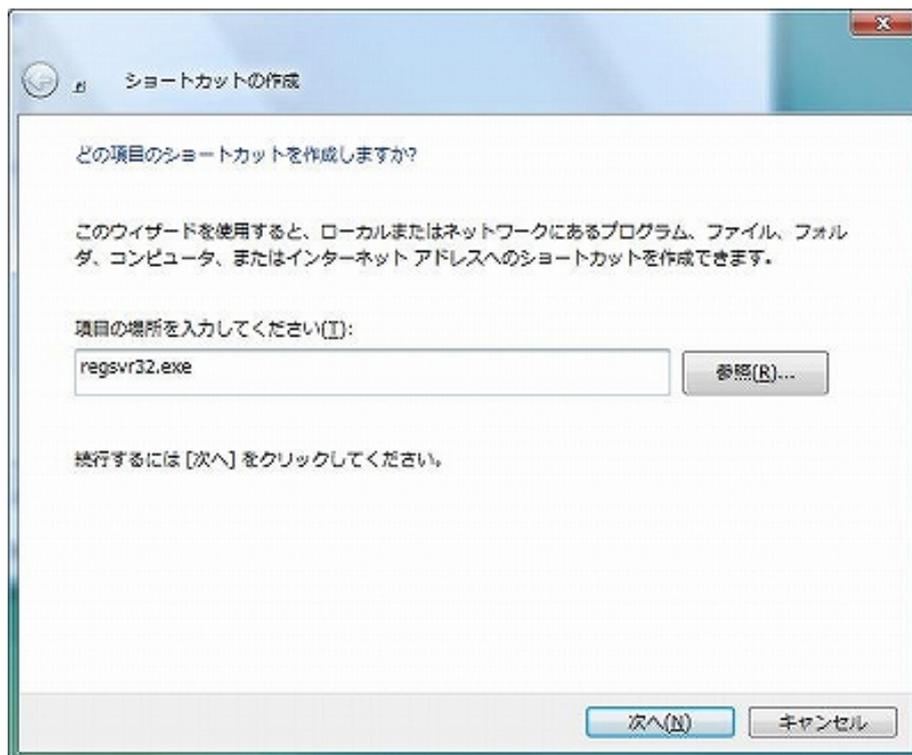
管理者権限で実行しなければならない OS コマンドはエラーになりますので、これを回避するには次のような方法があります。

4.2.1 OSコマンドのみ管理者権限で実行する

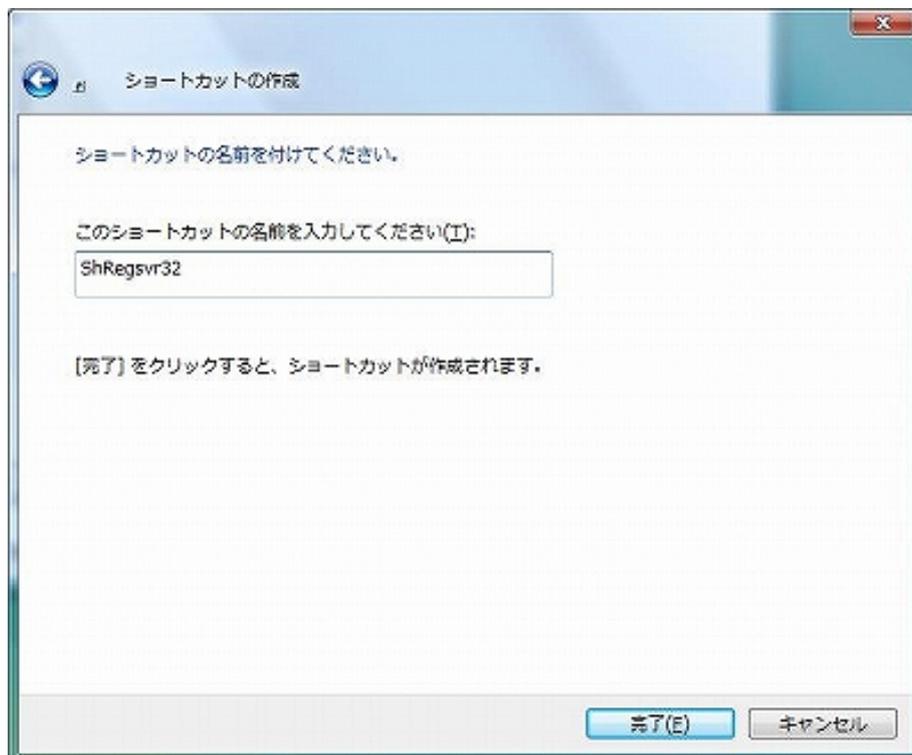
次の方法では OS コマンドの実行時のみ管理者権限で実行され、その際に実行許可を求めるダイアログが表示されますが、続行ボタンを押下することにより実行が可能です。

1. エクスプローラを起動し、V9 Plus が参照できる任意のフォルダを開きます。
2. 右クリックのメニューから、「新規作成(W)」 - 「ショートカット(S)」をクリックします。

3. 「項目の場所...」にプログラムの中で OS コマンドに設定したコマンドを指定します。

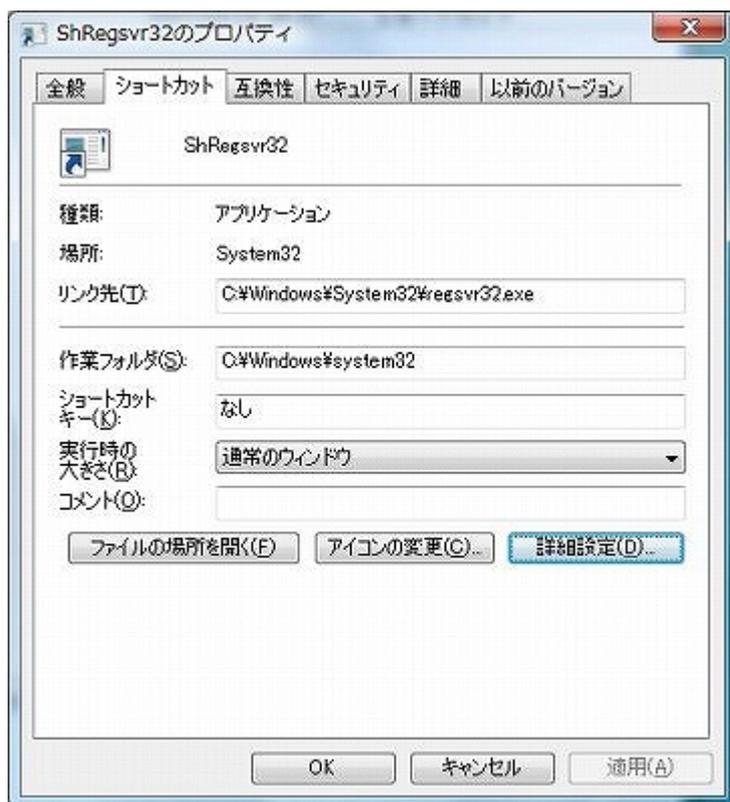


4. 任意の名前を設定し「完了」ボタンで、ショートカットを作成します。

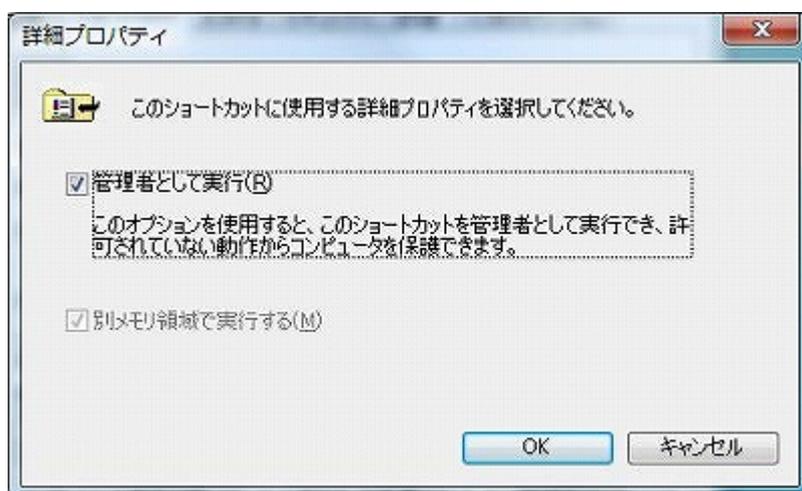


5. さらに、作成されたショートカットを選択し、右クリックメニューより、プロパティを開きます。

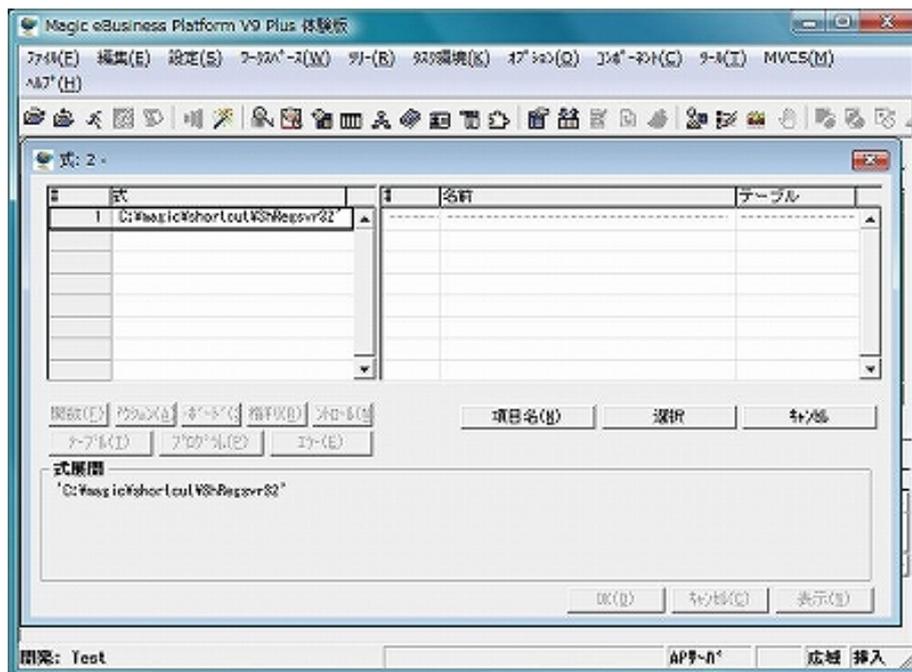
6. 「ショートカット」タブの中の「詳細設定(D)」ボタンを押下します。



7. 「管理者として実行(R)」をチェックします。



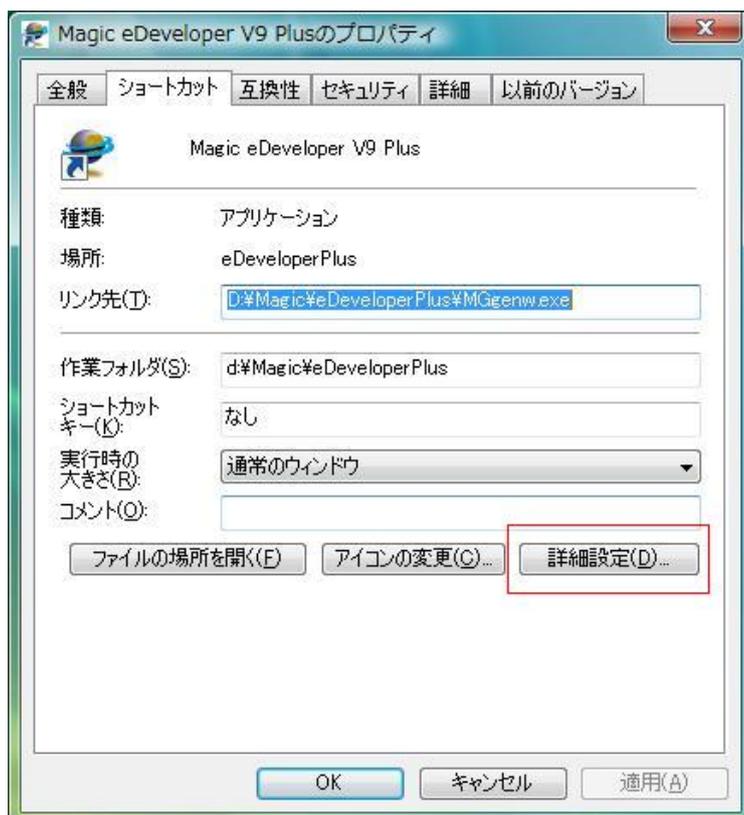
8. V9 Plus のプログラムの OS コマンドには、このショートカットを指定します。



4.2.2 V9Plusを管理者権限で実行する

次の方法は、V9 Plus のアプリケーションの実行を管理者権限で実行します。このため、V9Plus の起動時に実行許可を求めるダイアログが表示されますが、続行ボタンを押下します。Administrator グループのユーザに、このショートカットを提供することで、以前と同様の権限で V9 Plus のアプリケーションの実行が可能になります。

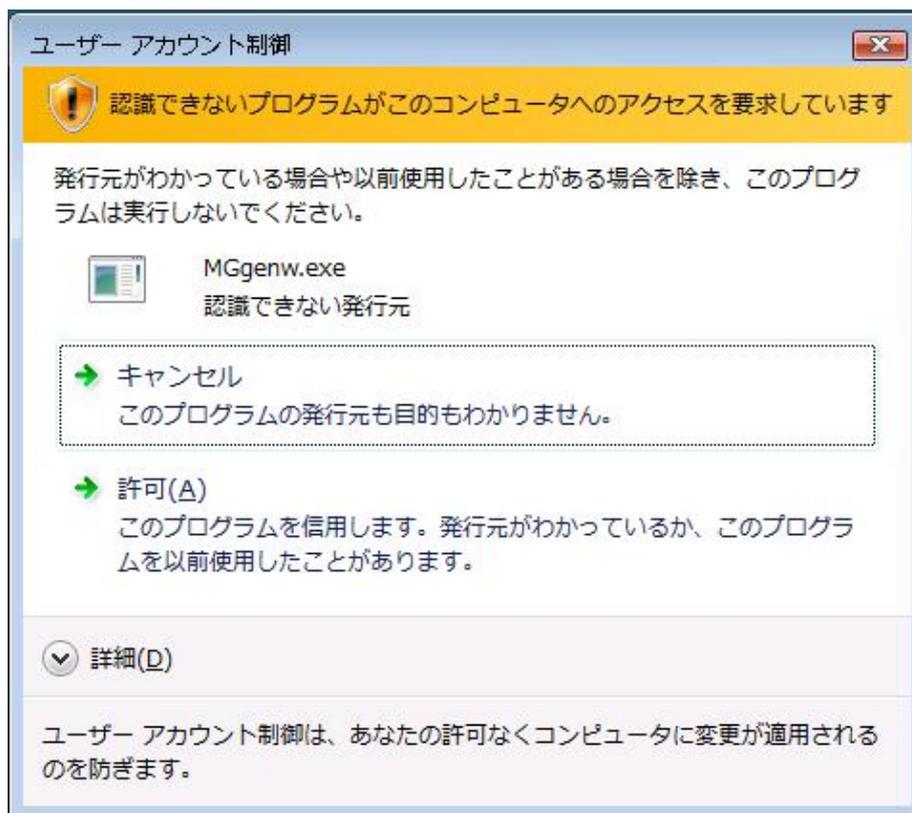
1. V9 Plus の起動アイコンの右クリックのメニューから「プロパティ(R)」をクリックする。
2. ショートカットタブの「詳細設定(D)」をクリックする。



3. 「管理者として実行(R)」をチェックします。



4. V9 Plus を起動すると、次のような画面が表示されますが、「許可(A)」をクリックすると V9 Plus が起動します。

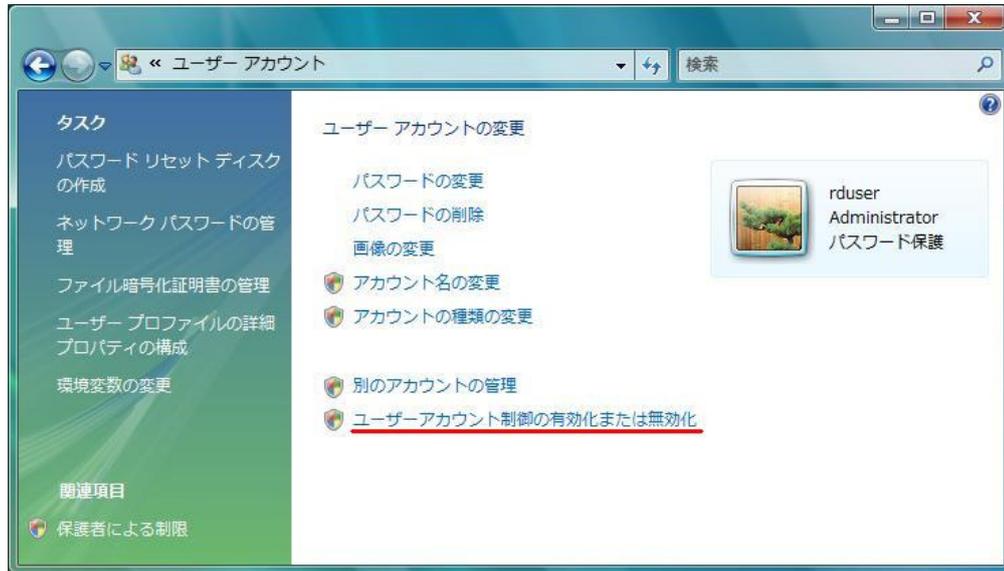


4.2.3 UACを無効にする

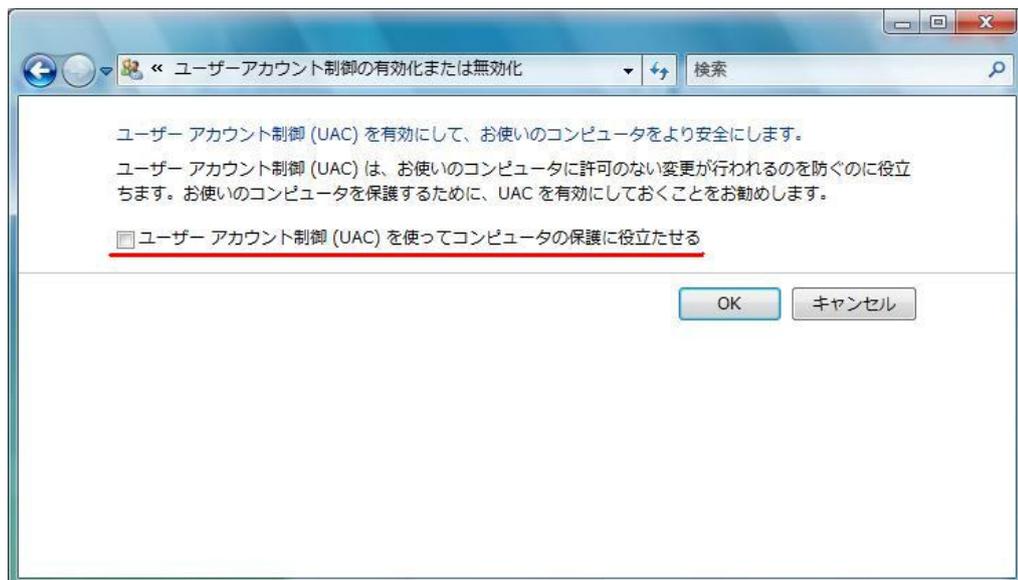
次の方法では、システム全体で UAC を無効になりますので、管理者権限が必要なコマンドが警告なしに実行することが可能です。

ただし、これはマイクロソフト社では非推奨の設定ですので、セキュリティに対する十分な検討を行われた上で、お客様の責任におきまして変更していただきますようお願いいたします。

1. コントロールパネルから、「ユーザアカウントと家族のための安全設定」 - 「ユーザアカウント」を順にクリックします。
2. 「ユーザアカウント制御の有効化または無効化」をクリックします。



3. 「ユーザアカウント制御(UAC)を使ってコンピュータの保護に役立たせる」のチェックを外します。



4.3 ブラウザクライアントの実行

UACにより、ブラウザクライアントを実行する時のクライアントの設定が制限されます。詳しくは「[6. ブラウザクライアントの設定](#)」を参照して下さい。

5. インターネットリクエストの設定

Vista 上でアプリケーションサーバを実際に運用することは希だと思われますが、Web アプリケーションを開発する際の動作確認を行うために、Vista 単体で Web アプリの実行環境を構築するケースが少なくありません。

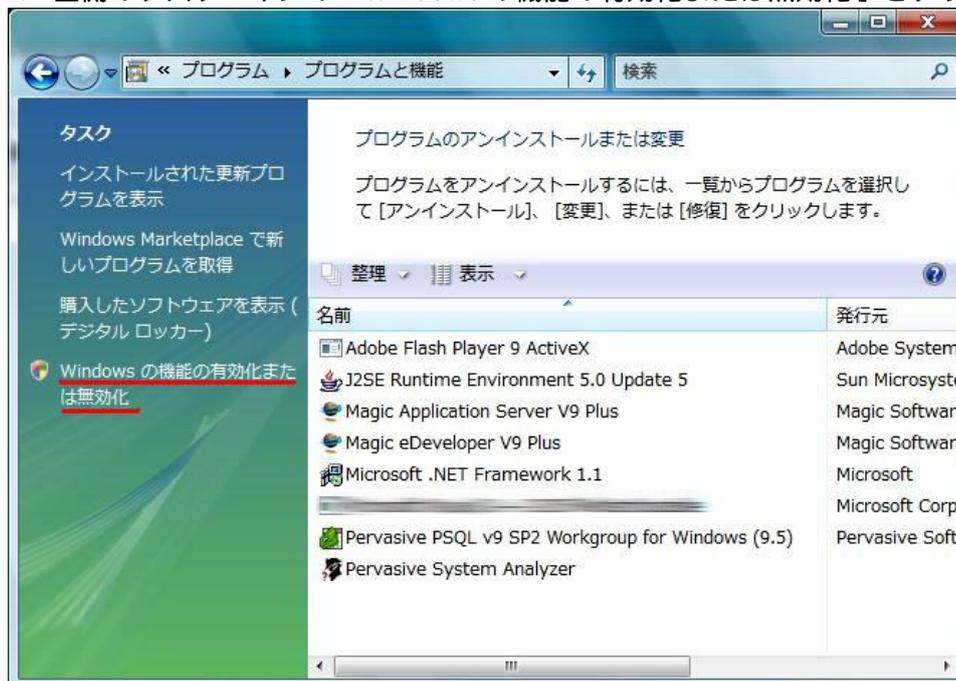
ここでは、そのような開発者の利便性を目的とした Web アプリの実行を行うための設定、すなわち Vista にバンドルされた IIS7 で利用するインターネットリクエストの説明を行います。

実際の運用に関わるセキュリティやパフォーマンスチューニング等についてはここでは触れません。

5.1 IIS7の有効化

Vista をインストールした直後は、IIS7 は有効化されておりません。以下の手順で IIS7 を設定する必要があります。

1. コントロールパネルから、「プログラム」 - 「プログラムと機能」を順にクリックします。
2. 左側のタスクペインの「Windows の機能の有効化または無効化」をクリックする。



3. Internet Information Services のツリーを広げ、次のような機能をチェックする。

Web 管理ツール

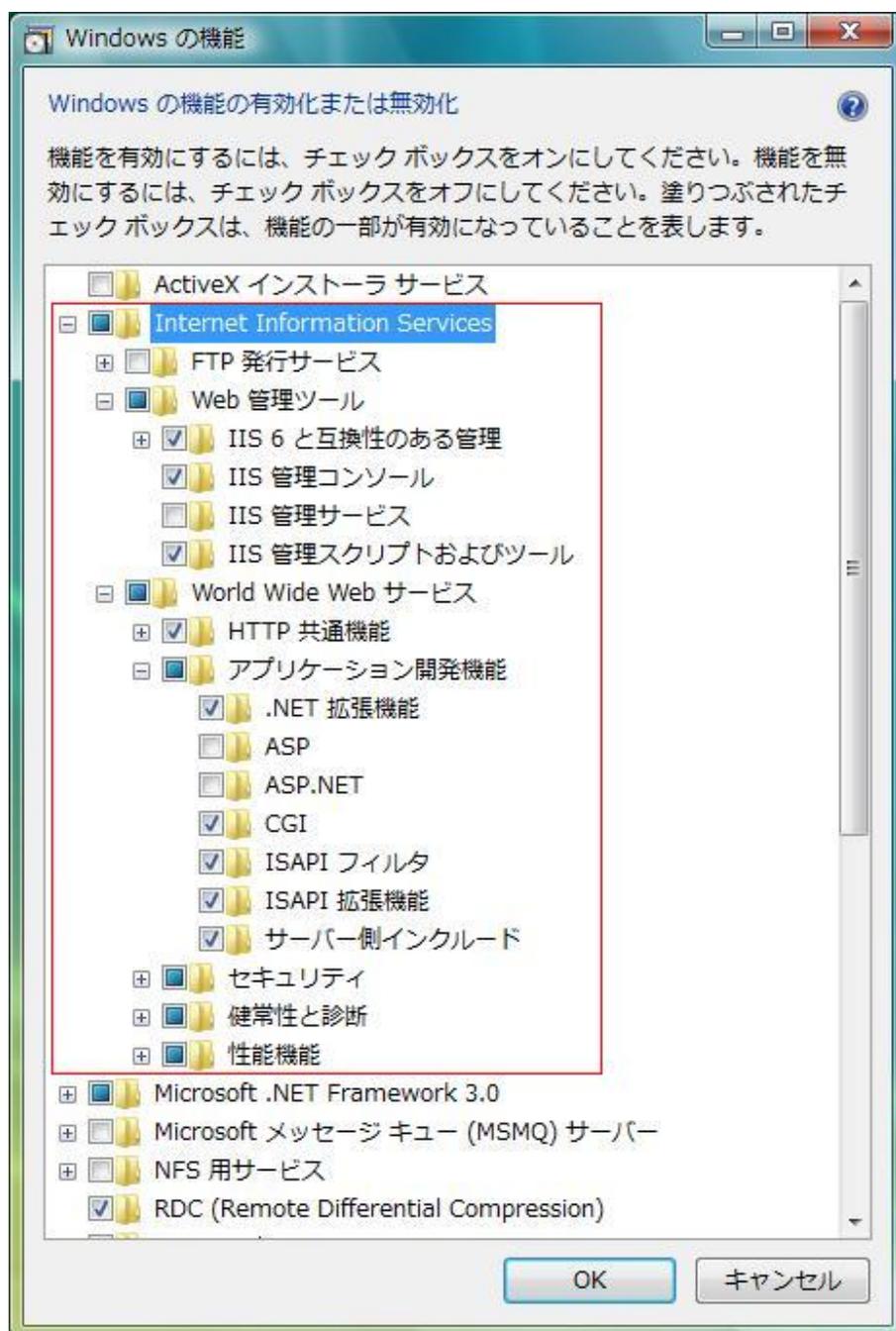
- IIS6 と互換性のある管理()
- IIS 管理コンソール

World Wide Web サービス

- HTTP 共通機能
 - 規定のドキュメント
 - 静的コンテンツ
- アプリケーション開発機能
 - .NET 拡張機能
 - ASP

- ASP.NET
- CGI
- ISAPI フィルタ
- ISAPI 管理機能

- セキュリティ
 - 要求のフィルタリング



4. OK ボタンを押して、セットアップを終了する。

📖 参考

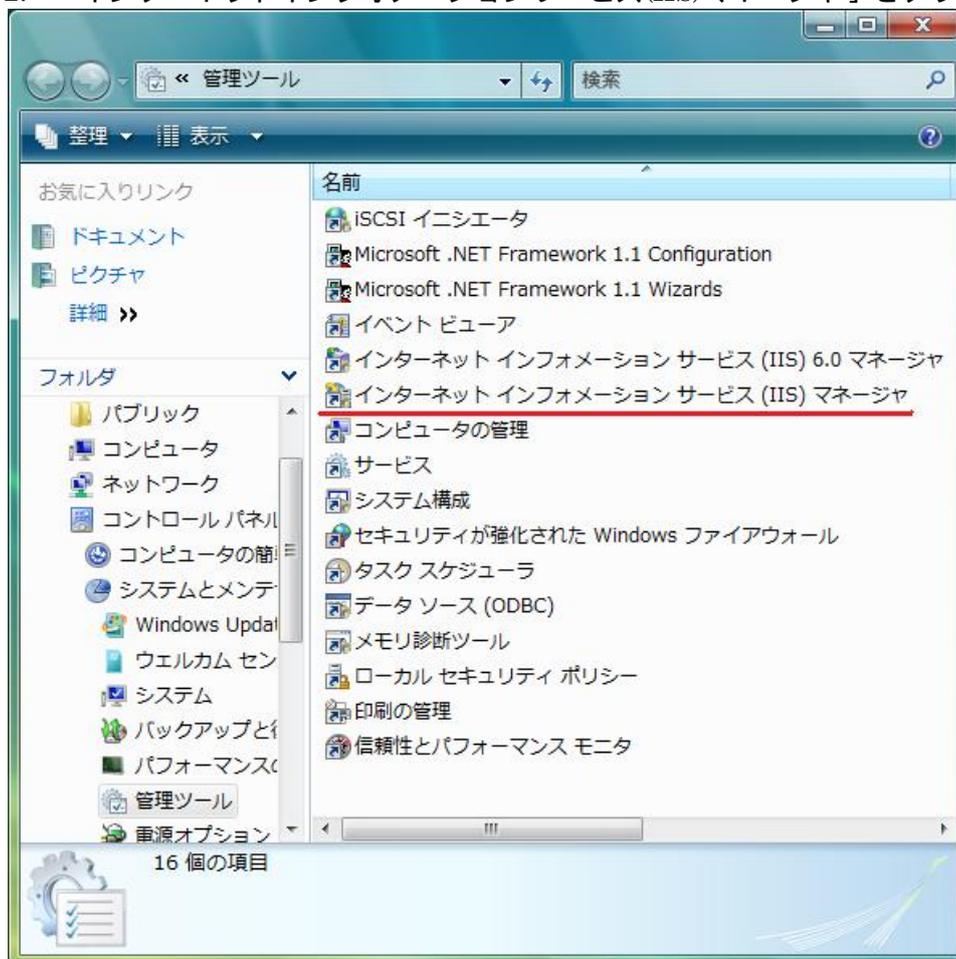
IIS6 互換機能を有効化しないと V9Plus のインストール時に、エイリアスが正しく設定されません。

5.2 仮想ディレクトリの作成

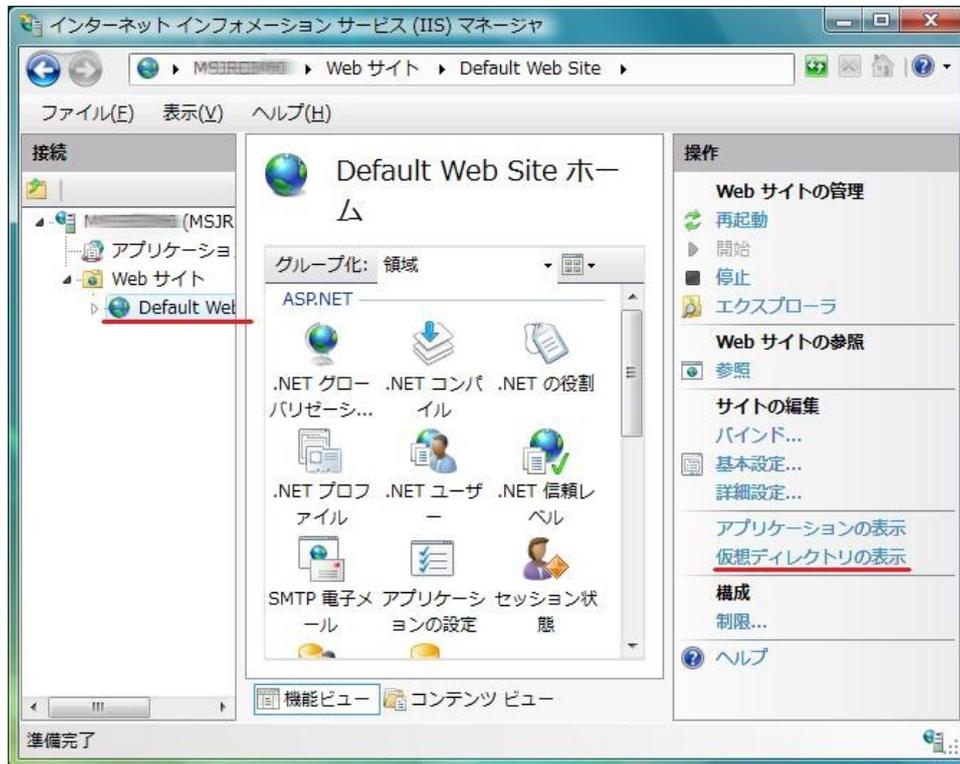
V9 Plus のインストールによって、通常はインターネットリクエスト、およびブラウザクライアントモジュール等の仮想ディレクトリ(エイリアス)は自動作成されるため、この作業はスキップしてもかまいません。

手動で再セットアップされることを想定し、ここで説明いたします。

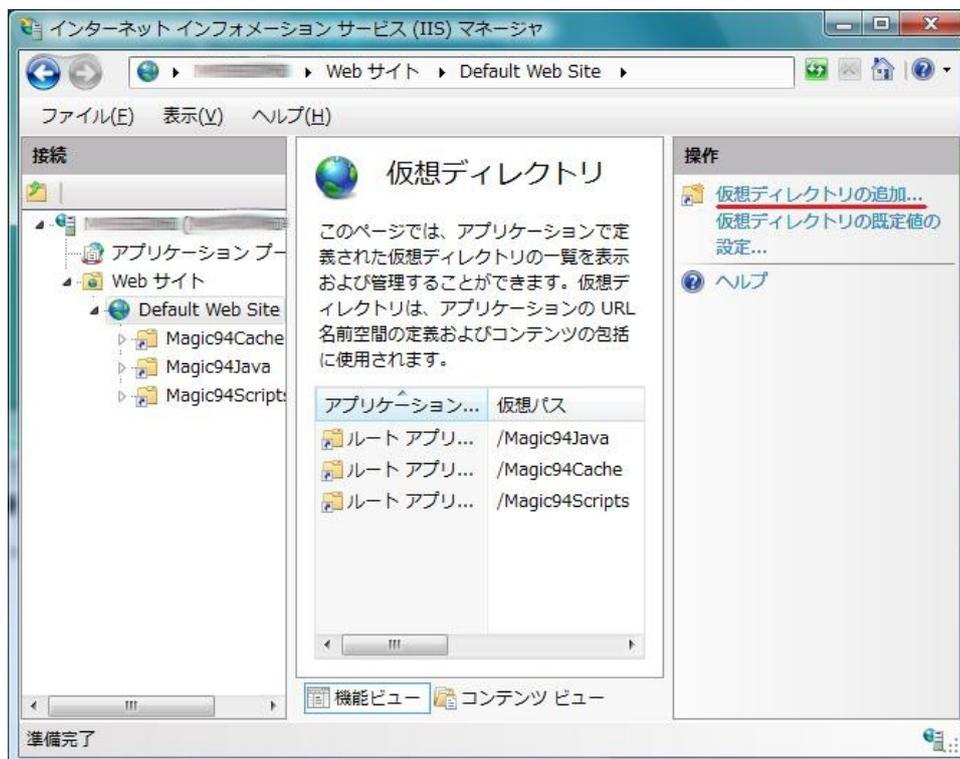
1. コントロールパネルから、「システムとメンテナンス」 - 「管理ツール」を順次クリックします。
2. 「インターネットインフォメーションサービス(IIS)マネージャ」をクリックします。



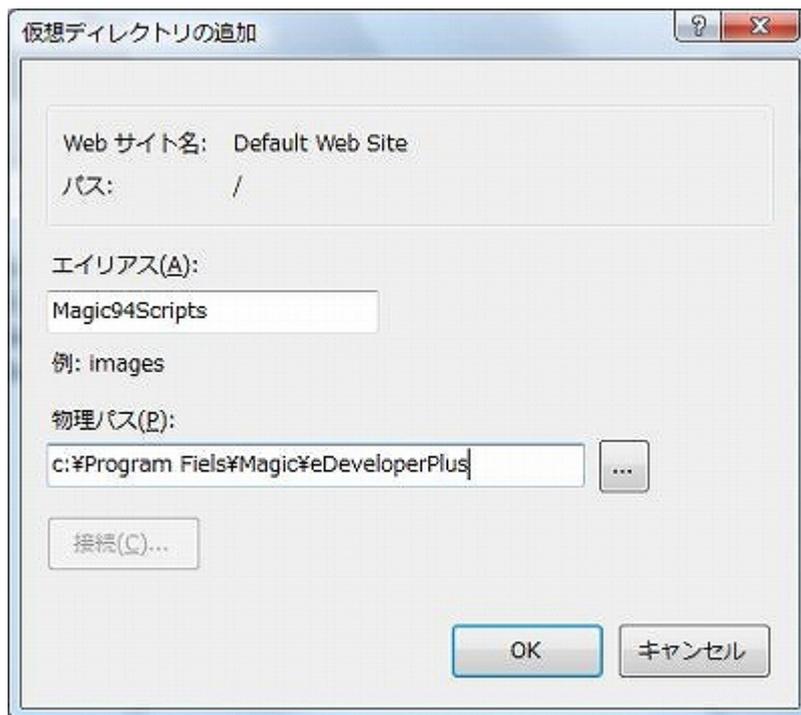
3. IIS マネージャのホームから左側のツリーを広げて、「Web サイト」 - 「Default Web Site」をクリックし、さらに右側の操作メニューの「仮想ディレクトリの表示」をクリックします。



4. 仮想ディレクトリが作成されていないときは、右側の操作メニューから、「仮想ディレクトリの追加」をクリックします。



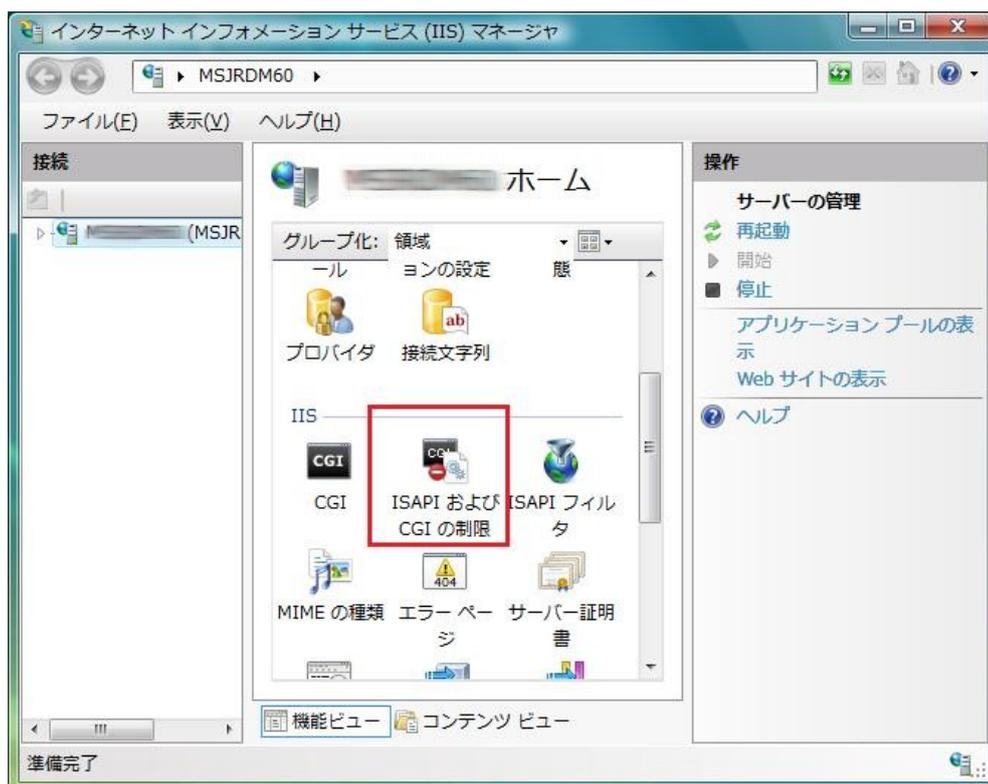
5. 順次 V9 Plus に必要な 3 つのディレクトリを作成します。



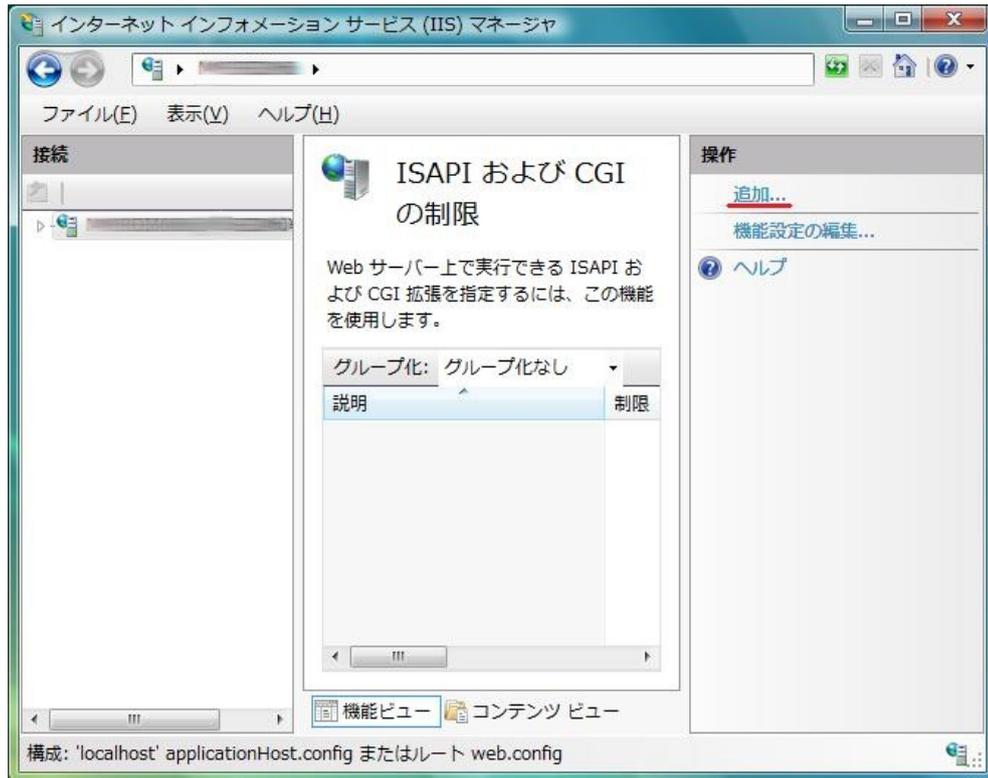
5.3 インターネットリクエストの実行許可

インターネットリクエストの実行許可の設定は、IIS6 と異なりますので、次の手順で設定してください。

1. 「インターネットインフォメーションサービス(IIS)マネージャ」を開きます。
2. 左側のツリーのルートである「ホーム」をクリックし、その中の「ISAPI および CGI の制限」のアイコンをクリックします。



3. 右側の操作メニューの「追加...」をクリックします。

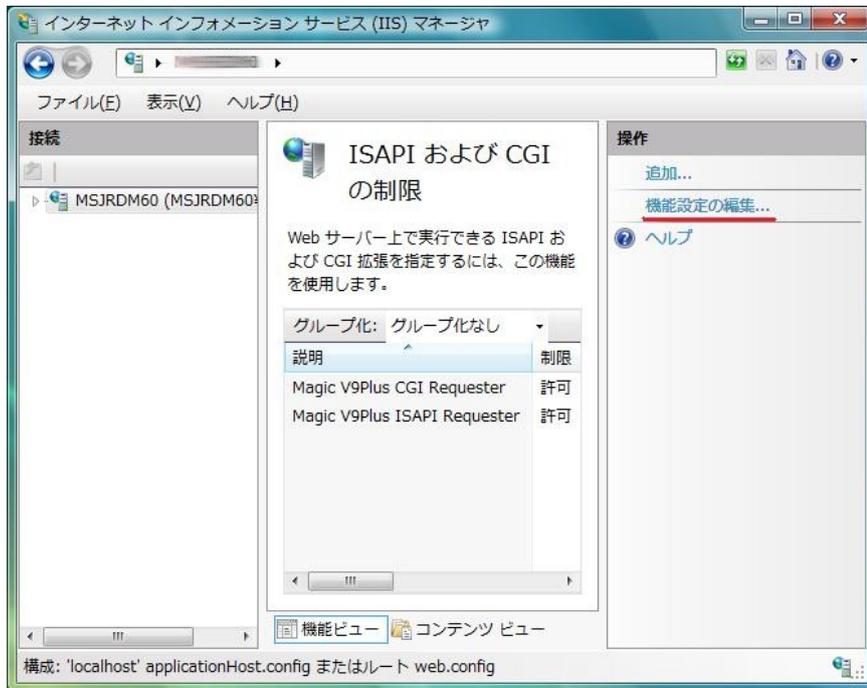


4. 「ISAPI または CGI パス(I)」にインターネットリクエスト(MGrqispi94.dll または、MGcgi94.exe)を指定し、あわせて「拡張パスの実行を許可する(A)」をチェックします。



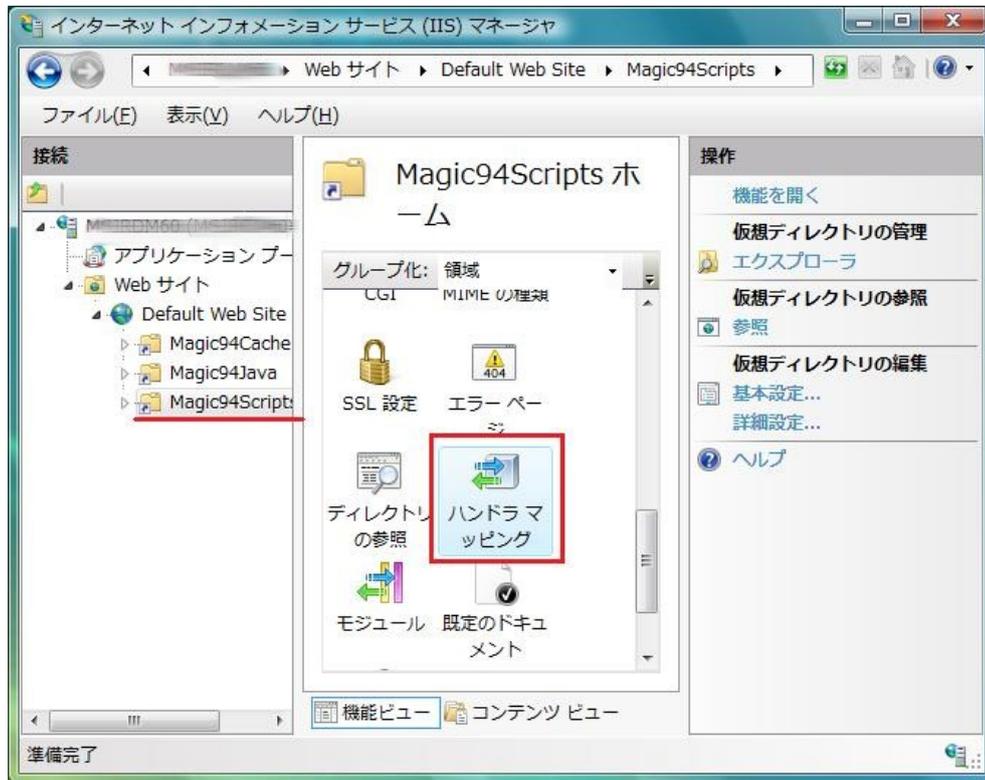
☞ 参考

もしセキュリティ上、動作未確認の ISAPI または CGI モジュールがインストールされないことがない場合、右側の操作メニューの「機能設定の編集...」をクリックし、任意の ISAPI または CGI モジュールを許可することもできます。

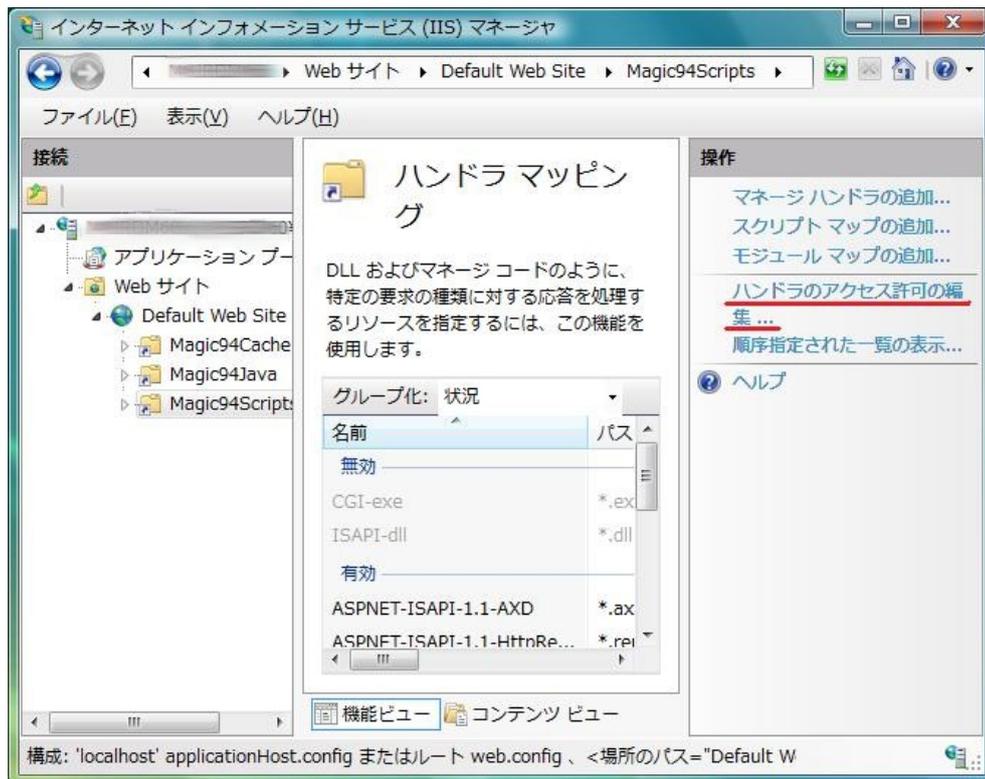


次に、Scripts ディレクトリにある ISAPI または CGI モジュールのハンドラのアクセス許可の設定を行います。

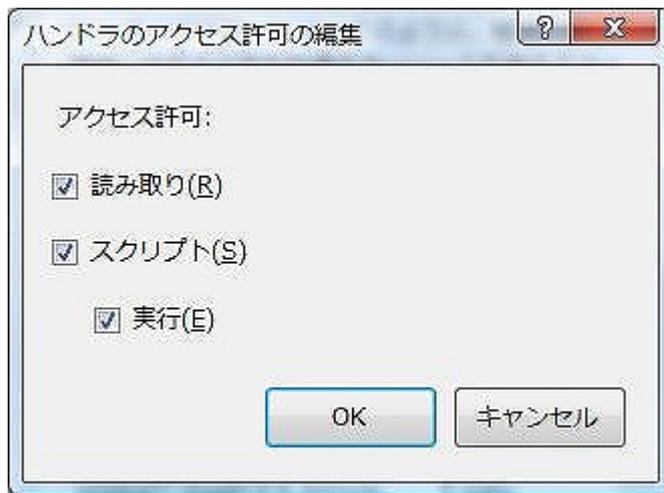
5. 左側のツリーから、インターネットリクエストのある仮想フォルダをクリックし、その中の「ハンドラマッピング」のアイコンをクリックします。



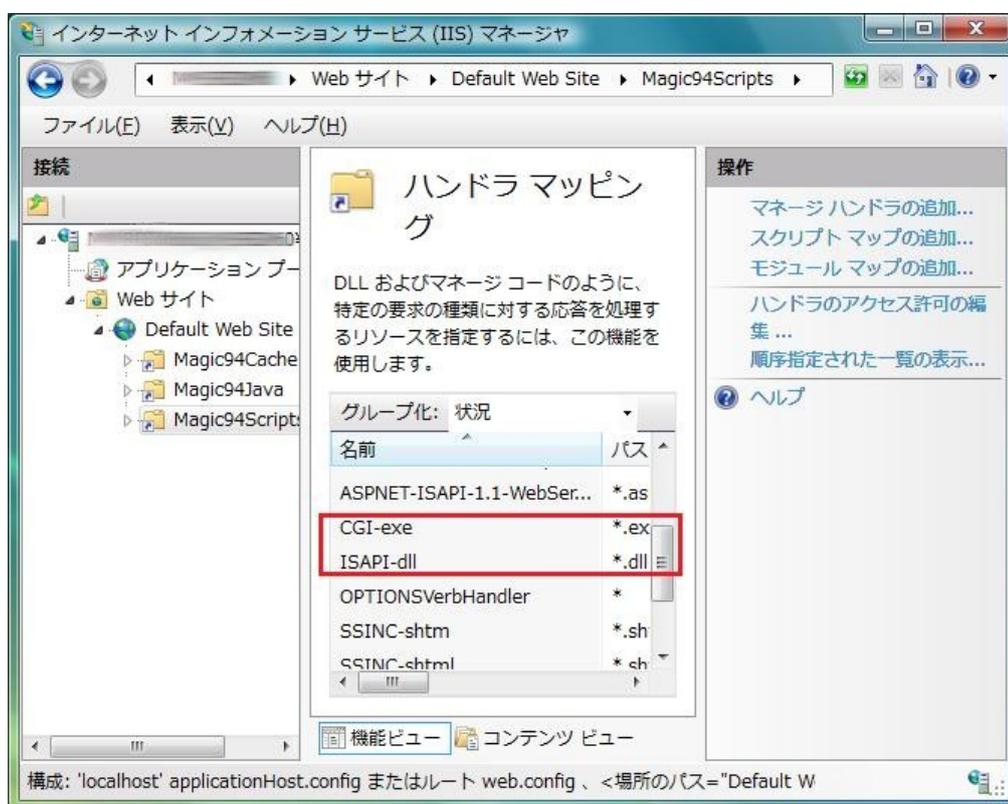
6. 右側の操作メニューの「ハンドラのアクセス許可の編集...」をクリックします。



7. 「実行」のチェックボックスをチェックします。



8. OKを押して、CGI-exe、ISAPI-dll が有効になっていることを確認します。

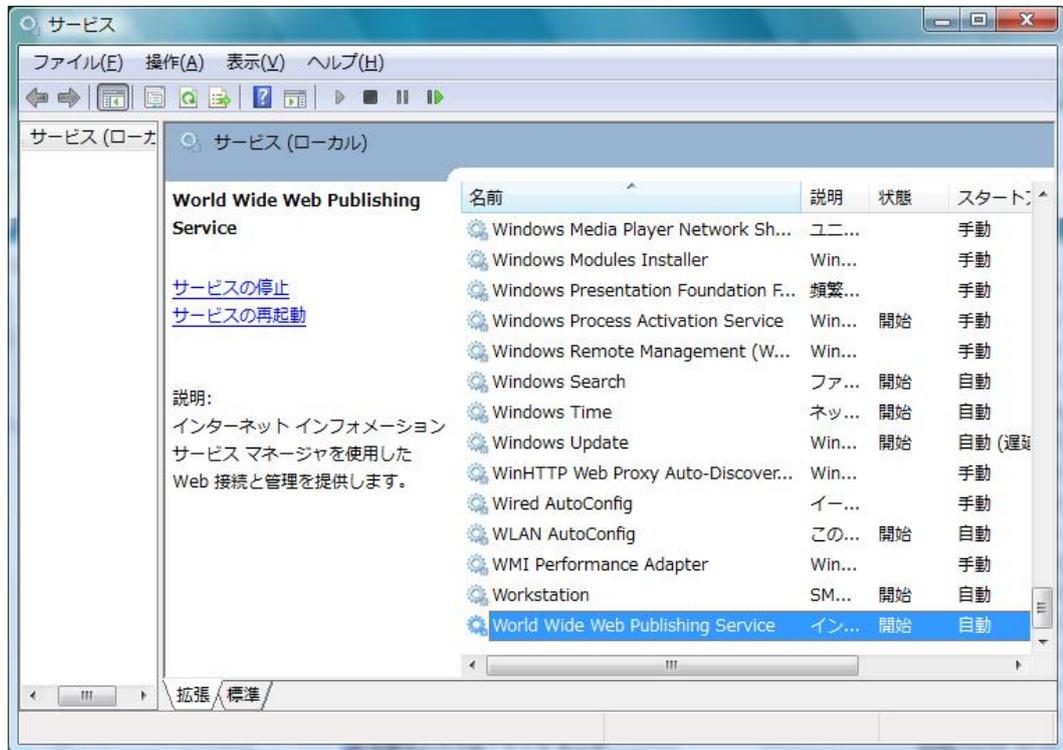


以上で、ISAPI および CGI の実行許可に関する設定は終わりです。

5.4 IIS7サービスの起動

IIS を有効化するとサービスに登録されますので、すぐに実行する場合はサービスを起動します。

1. コントロールパネルから、「システムとメンテナンス」 - 「管理ツール」 - 「サービス」をクリックします。
2. サービスのリストの一番下にある、「World Wide Web Publishing Service」を開始します。



5.5 ブラウザクライアントモジュールのインストール先

セットアップタイプで「標準」を選択した場合、.NET および Java アプレットのブラウザクライアントモジュールは、Web サーバのルートでなく、V9Plus のインストールフォルダにインストールされます。

Web サーバのルート、または V9Plus のインストールフォルダ以外にインストールする場合、「カスタム」タイプを選択し、「Java アプレットの転送先ディレクトリ」に任意のフォルダを指定してインストールして下さい。

5.6 URLの日本語の使用について

アプリケーション名、および公開プログラム名に日本語が含まれていると、URL が正しく処理されませんので、これらに対して英数字の 1 バイト文字を使用する必要があります。

また、ブラウザクライアントの終了時 URL のパラメータに日本語を設定したプログラムにおいても、結果的に URL のパラメータに日本語が付加されることとなります。この場合、MAGIC.INI に次の設定を行うことで、アプリケーションサーバがパラメータに対してトリプレット処理を行います。

```
[dbMAGIC_ENV]
TripletNonAsciiUrl = Y
```

6. ブラウザクライアントの設定

6.1 V9 Plus アプリケーションサーバの設定

ブラウザクライアント方式は、.NET 方式のみサポートされます。この際、アプリケーションサーバは、Ver 9.4 SP6b PT1 にアップデートしていただく必要があります。（このモジュールは、弊社ホームページからダウンロード可能です。）

1. Ver9.4 SP6b PT1 を V9Plus がインストールされたフォルダに上書きします。
2. Magic94Java にある新しいブラウザクライアントモジュール（注 1）を Web のドキュメントパスにコピーします。
3. MAGIC.INI に次の設定を行います。

```
[MAGIC_ENV]
BrowserClientSubVersion = 001
BrowserClientTechnology = N
```

```
[MAGIC_SPECIALS]
SpecialForceCLR1 = Y
```

注 1: ファイルは以下の通りです。

MGBC940_60S_001.cab	239,669	2007/05/21 15:00
MGBC940_60_001.cab	239,873	2007/05/21 14:59
MGBC940_60_001.js	124,620	2005/12/02 19:02
MGBC940_60_001CS.cab	262,715	2007/05/21 14:35
MGBC940_60_001CS.js	11,607	2005/09/20 10:39

また、Vista上でアプリケーションサーバを実行すると、一般ユーザに対してブラウザクライアントキャッシュパスに書き込みが許可されていないため、正しく実行できないことがあります。この場合、セキュリティを考慮した上で、(1) [アプリケーションサーバを管理者権限で実行する](#)、(2) [UACを無効にする](#)、(3) 一般ユーザに対してブラウザクライアントキャッシュパスに書き込み権限を許可する、のいずれかの方法で解決することができます。

6.2 Vista クライアントの設定

6.2.1 Microsoft .NET Framework

Vista には .NET Framework 3.0 が標準インストールされていますが、ブラウザクライアントを正しく実行するためには、.NET Framework 1.1 パッケージを別途インストールする必要があります。

.NET Framework 1.1 のモジュールの入手およびそのインストール方法については、マイクロソフト社のホームページをご覧ください。

6.2.2 クライアント用モジュールのセットアップ

IE からアプリケーションを最初に実行すると、クライアント用のモジュールが自動でセットアップされます。この処理は、Windows フォルダの配下にファイルをコピーし、アセンブリを登録しますが、管理者権限で実行する必要があるため、UAC が有効になっていると正しくセットアップすることができません。

この場合の対応として、(1) クライアントのアプリケーションを実行する前に、手動のインストーラ (DotNetMsi_001.msi) を管理者権限のあるユーザで実行するか、(2) [UACを無効にして](#) 管理者権限のユーザでIEからアプリケーションを実行するか、いずれかの方法を行って下さい。

7. その他の機能について

7.1 Internet Explorer 7

スタイルシートの仕様変更 (CSS 2.1 に対応)、SSLv2.0 のサポート中止等の仕様変更にと
もない、アプリケーションまたは HTML テンプレートファイルの修正が必要になる場合が
あります。

7.2 メイリオフォント

Vista では、新しい ClearType のメイリオフォントがインストールされています。このフ
ォントを V9Plus で利用するには、アプリケーションで使っているフォント定義ファイルの
中のフォント名をメイリオに変更します。

ただし、標準の幅は MS ゴシック等に比べて 1.5 倍から 2 倍程度大きいため、そのままメイ
リオに変更すると、コントロールや画面の幅が著しく広がってしまうことがあります。
この場合は、ポイント数を小さくすることで調整していただくようお願いいたします。

7.3 JIS2004対応

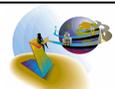
V9Plus は Shift JIS のみサポートしており、Unicode には対応していません。
データ入力に関しては、IME の変換文字制限をセットする等の対応をご検討ください。

7.4 ヘルプファイル

Vista では、*.hlp のヘルプ形式ファイルはサポートされません。
ヘルプリポジトリに Windows ヘルプとして、この形式のファイルが指定されている場合、
ヘルプファイルを chm 形式等に変更する必要があります。

参考URL : <http://support.microsoft.com/kb/917607>

Magic
eDeveloper V9 Plus



Windows Vista TM の設定

Copyright © 2007, Magic Software Japan K.K.,
All rights reserved.

第 1 版
発行

2007 年 6 月 25 日
〒151-0053 東京都渋谷区代々木三丁目二十五番地三号
あいおい損保新宿ビル 14 階
マジック ソフトウェア・ジャパン (株)
<http://www.magicsoftware.co.jp/>
